

令和5年度 第2回 みんなで支える森林づくり長野地域会議 意見概要

■開会 13:30～

■挨拶（栩秋課長）

■座長就任

（渡辺座長）

今年度の実施内容について、資料1により事務局から説明されたい。

■令和5年度実績見込みについて【資料1】

資料に基づき、順に説明（林産係、普及係、林務係）

■令和5年度実績見込みについて意見交換、質問

（渡辺座長）

ここまでの説明に関し質問、意見交換としたい。

（中島構成員）

P10、森林整備事業について。小川村ではライフラインの枯れ枝、危険木伐採をよくやっているが、最近、枝が道路にかかっているところなどをよく見かける。

このようなものは地域住民から市町村に申請（陳情）し、市町村が要望し県が採択しているのか。予算があってそれに合わせるのか。

（佐藤）

ライフラインの危険木処理について、地域住民からの情報が市町村に入り、そこから特に危険なところから優先順で市町村で計画していく、というスタイルかと思う。

次年度事業要望を前年度に頂戴し、それにより事業が決定する。

（武田）

補足として、市町村森林整備支援事業という形で、市町村が自分たちで要望を入れた計画を立てて、県へ上げ予算が決定される、という仕組み。

（栩秋）

ライフラインについては、様々な議論があった。

電線などにかかる危険枝などについては、NTTや中電の事業者が所有者から借りているものであり、事業の中で整備していくものと位置付けている。

市町村の皆様から頂く申請は、例えば通学路などが暗くて見通しが悪く危険である、というような、所有者のいない、市町村が代わりに実施するものという形でライフラインを実施。

(相野構成員)

- ・資料の構成が見にくい。(計画と実績見込みの対比が見にくい表となっている)

(渡辺座長)

- ・上が計画、下が実績となっているが、事業内容等の上下での整合が取れていないので、また今後合わせていただければ。
- ・事業箇所が高山村だが実施主体が須坂市となっているものは誤植か。

(高橋)

- ・実績の表については今後工夫したい。(口頭にて、各森林整備内容の計画と実績を説明)
- ・高山村の中に須坂市有林が飛び地となっている。このためこのような表現となっている。管内にはこのような事例が多い。

(相野構成員)

- ・人工造林 12 件の実施計画があったが 10 件の実績ということで、2 件できなかった理由はあるのか。
- ・間伐について 6 件の計画が、実際にはどれだけだったのか。計画に対し実績が金額で比較されておりわからない。
- ・防災減災の里山整備について、優先的に整備がなされるべき事業だと思っている。なぜできなかったのか、実績が少ないなど、できれば理由を共有して、乗り越えられるようにして頂きたい。現場で困っていることを吸い上げ、乗り越えていける支援ができれば。

(高橋)

- ・できなかった理由については、土地所有者の同意に時間が掛かってしまったり、事業実施主体の都合(集約化の遅れ、人員不足)などがある。
- ・間伐は 6 件の計画に対し、4 件の実施。
- ・承知した。共有に努めたい。

(伊藤構成員)

- ・P5、開かれた里山の整備について、要望に対して、実績見込みが多く超えているのだが、どのような手続きで実施できているのか。予算を超えても実施可能なのか。

(武田)

- ・予算に余裕がある場合など、他地域振興局等との調整により、長野地域でも変更協議を県に申請し認定を頂いて増額する場合がある。

(栩秋)

- ・森林整備の業務について、里山整備利用推進事業について、地域の方たちの活動に対し支援をさせて頂いている。実際にやってみると 100 が 120 になったり、逆もあったりなどかなり実施に合わせて変化しやすい。手続きとして、増減の調整を行うことがある。

(中島構成員)

- ・今後、森林税のほかに譲与税など国でも力を入れていくところと思うが、予定と実績について、ただ数字だけで帳尻があう、ではなく、どのような税金がどのように使われて、こんなものにも使われる、というようなことを県民に分かるように PR すべき。

(栩秋)

- ・おっしゃる通り。のちほど他の税についても説明したい。

■令和 6 年度の森林づくり県民税の事業計画について

(渡辺座長)

事務局より説明されたい。

(大草)

- ・資料 2 により、全体概要（県資料）において説明
R6 は全体で 7 億 5 千万円。

(渡辺座長)

- ・長野地域振興局についてはだいたいどれくらいか。
県全体でおおよそどれくらいか。
- ・信州ネイチャーセンター構築事業とは。建物整備か。

(栩秋)

- ・長野管内は、おおよそ全 10 局の中でも 3 番目から 4 番目程度。松本の松くい虫対策など地域特性もあり、例年平準化された金額ではなく、増減が多いものとなっている。
- ・信州ネイチャーセンターについては、環境部による事業。人材育成を行うものである。

(相野構成員)

- ・担い手不足については、この中の事業で担い手育成ができているのかどうか。
- ・給与を上げる、人員費用を上げる、など、高騰する物価スライドを次年度予算などに反映しているか。

(栩秋)

- ・長野管内では、辞める方と入る方が均衡している。
辞める方を減らしたい、という思いでこのような事業展開がなされている。
県全体で、人口減もあり増やしていくことが難しいことから、裾野を広くしたり、機械化を進めるなどで担い手対策を進めている状況。
- ・公共事業などはかなり細かく物価スライドに応じた単価設定で変更している。

(和田構成員)

- ・森林組合について、公共事業の森林整備の入札案件がなかなか出てこない。
事業者とすれば、組合員さんの山の本を出すのに、レンタル機械や免税業者さんとのやりとりで、自助努力でコストダウンを図っている。
また組合員への給与もなんとか努力している。
ほかに、年2回、林業労働財団の共同説明会に出ているが、あまり人が来てくれない。
労働人口が減っていることを実感。
若い方を入れていきたい。組合では昨年4名、新規が入ってくれたところ。

(渡辺座長)

- ・次に、森林税以外のその他について事務局から説明されたい。

(武田)

- ・森林環境譲与税、及び森林経営管理制度について資料 P13 に基づき説明。

(栩秋)

- ・森林税は県の中で必要性を検討し実施する県全体で必要な事業。
- ・森林環境譲与税(R6より森林環境税)は市町村が中心となり各地域に応じ実施するもの。
- ・今後、浸透度を図るため、情報発信についてはしっかり説明を尽くしていきたい。

(渡辺座長)

- ・行政でやっていることはなかなか市民に伝わらない。環境、という分野でいえば、学校の教科にはないのに言葉としては(世間的には)ある。環境分野について、より教育を考え社会全体の課題として根本から変えていかないと。と思う。

- ・森林については、学校の教科書からほとんど抜けてしまっている。しかし水や空気を支えているのは森林で、世界ではその重要性が問われている。市町村に森林担当部署があったり、被害を受けている方は森林整備を、と直接の声も上がってくるが…。
- 長野県は森の多い県であり、今一度、森林をベースに生活が成り立っている、ということについて、もう少し県の中でも頑張ってもらいたい。

(和田構成員)

- ・森林環境譲与税について、市民に経営管理権についてアンケートをとっても、山の管理を市にお願いするかと聞いても、返答は数パーセント。市民に森への関心がない。
- 長野市は、森林環境譲与税で人材育成や環境教育、様々な事業をやっている。他の市町村にも波及すれば。あとは木材利用も頑張ってもらいたいと思う。

■その他について 【別添資料】

(渡辺座長)

スギ花粉症対策（小花粉スギ）に関して事務局から説明されたい。

(高橋)

資料に基づき概要を説明。

(中島構成員)

- ・花粉症対策については、化学的な原因もあると思う。転換する、というより、使う方も、育てる方も必要。
- ・バランスよく進めることが必要。

(高橋)

- ・発生源対策の4つの中に「スギの需要拡大」がある。今後伐採量が非常に増えるかと思うので、出口の確保は重要な課題と思う。

(相野構成員)

- ・建築の分野でも、国では木造公共施設など木材を多く使っていこう、という方向にある。

(高橋)

- ・木を育てていく、ということも必要であり、後世にバトンタッチできるようにしっかりとした森林整備を実施していきたい。

(渡辺座長)

様々な意見を頂戴したことに感謝。

これで地域会議の協議事項を終了する。 (15:55)

■閉会

以上をもって長野地域会議を終了

(構成員から挨拶)

■閉会

(終了)